

住民の心にひびくカリスマSC決めゼリフ

九州生活支援コーディネーター活動研究大会

相手の心に灯を灯す明言

- 「子どもたちの未来のためにやっているんです」
- 「お孫さんのためにやっています」
- 「本当にフクフクします」
- 「これができれば私たちの暮らしが良い方に変わります」
- 「皆さんが安心されると思っています」
- 「皆さんの取り組みは日本一になるので、ここが日本で有名なところになりますよ」

相手の自尊心をくすぐる明言

- 「自分ではできないから助けてください」
- 「私たちの地区を先進地化していきましょう」
- 「うちが県内の中のモデルになりましょう」
- 「うちの地域がこんなことをしたら他の地域の方がうらやましがります。うちの地域で良かったと思えますよ」
- 「いつも勉強させていただきます」
- 「僕は知らなかった。そんなのがあるのですか、知らないです」

相手の不安を取り去る明言

- 「一緒に取り組んでいきたいのでお邪魔させていただきます」
- 「出来るぶんだけやってみましょう」
- 「何かあっても相談にのります」

相手がうれしくなる明言

- 「そうそうたるメンバーの皆さんと活動させてもらって幸せです」
- 「こんな仕事をしてないと皆さんと知り合うことはなかったです」

ポイント！！

- 具体的に相手の職歴を活かせるようコーディネートする。
- 住民活動が独り立ちできるように入り過ぎない。軌道に乗れば距離を置く。
- 話合いでは、住民に進行する役割を持ってもらう。
- 生活支援コーディネーターが1人でやり過ぎない。
- 理想として、一番良いコーディネーターは何もしないが、その場にいること。